

EspritBTK 留置時にロードマップが有用であった症例

¹社会医療法人社団カレスサッポロカレス記念病院

岡 尚求¹、秋林 和幸¹、片山 真人¹、川本 健太¹、長谷 優樹¹、谷藤 響¹、山口 翔¹、伊藤 のぞみ¹、小野 智博¹、深尾 翔斗¹、森田 顕太郎¹、中村 仁志¹、居橋 奈々¹、小坂 直樹¹

生体吸収性スキャフォールド **EspritBTK** が当院における血管内治療に行われた。当院カテーテルセンター下肢動脈血管内治療における診療放射線技師の役割と **EspritBTK** 指摘留置手順のメジャー貼付方法を合わせて紹介する。また、スキャフォールド留置時には造影剤使用した DSA 画像から得られたロードマップ画像すなわち膝下血管 DSA 画像を投資像に重ね合わせながら、標的部位にリアルタイム位置調整行うことで位置決めを入念に行った。位置決め後にロードマップ透視下にステント展開を行った。**EspritBTK** はバルーンマーカー以外は金属成分が少なく視認性に乏しい。スキャフォールドデリバリー時の推奨事項には主要分岐部にスキャフォールドがかからないように留置することとあり、**EspritBTK** 留置時には膝下血管をロードマップ透視下に表示することは標的部位に安全に留置するため有用であった。